

資料紹介：沖縄県立博物館所蔵の地図について —近代以前の地図を中心に—

稲 福 恭 子*

Brief Notes on the Ancient Maps Preserved in the Okinawa Prefectural Museum

Kyoko INAFUKU*

はじめに

沖縄県立博物館は、前身となる東恩納博物館や首里市立郷土博物館から、平成18年4月24日で60周年を迎えた。また、那覇市首里大中町の旧中城御殿の地で博物館が開館して平成18年11月3日で40年になった。沖縄県立博物館は、平成19年に那覇市おもろまちへ移転し、新館を開館する。そこへ博物館を移転し新館を開館するため、平成18年度は博物館を一旦休館している。展示活動など休止している面もあるが、博物館内では現在も新館開館に向けた準備作業の真っ最中である。

博物館移転準備作業では、収蔵資料をきちんと移転するために、首里の博物館からおもろまちの博物館新館へどれだけの資料を移動するのか把握する作業が必要だった。そのため、平成15年度から博物館新館移転整理事業が立ち上げられ、資料量を把握する作業が行われている。平成18年3月31日現在、沖縄県立博物館には約8万3千件の資料が収蔵されているが、登録資料だけでなく未登録資料や学芸資料等を含めると、さらに多くの資料を収蔵していることが現在までにわかっている。これらの作業は分野ごとで行われているが、歴史分野での整理作業では、各分類を設けて資料のたまかな仕分け作業が行われてきた。その過程の中で「地図」についての集成も行われてきたので、今後の博物館活動や地図研究の予備的資料にすることを目的にして、当報告をまとめることにした。

ただ、博物館新館への移転準備作業や整理作業も中途であるとともに、個々の資料を詳細に観察してその価値を検討しきれていないものもあるのが現状である。そのため今回は、近年の研究成果も含めながら、地図のなかでも特に近代以前の資料について若干紹介することとしたい。

沖縄県立博物館収蔵の地図資料概観

資料の整理はまだ中途の状態だが、現在少なくとも約90件の地図が確認されている。そのなかで、近代以降に製作された地図や未登録及び学芸資料を除き、近代以前の地図は14件にとどまった(表1)。現在までにおいて、近代以前の琉球の古地図集成も様々に行われ、その集成成果のなかでも、明治時代以降には地図の作成件数が増加するといわれている(沖縄県教育委員会 [1984])。その傾向がすべての理由ではないが、博物館の収蔵資料でも収蔵された地図の大半は近代以降に製作されたものであった。

表1に挙げた14件を大まかに見ると、14件中、No.1～6までの約半数に当たる地図は、林子平による『三国通覧図説』内の琉球の地図である。また、No.7の「琉球明細総図」は、トカラの口之島から与那国島までの地図(絵地図)が描かれ、薩州之内、鬼界島他四島及琉球国の高石が記されている。地図の内容から、江戸幕府によって集成された国絵図の系統をひく地図だと考えられている(沖縄県教育委員会 [1994])。

* 〒903-0823 那覇市首里大中町1-1 沖縄県立博物館
Okinawa Prefectural Museum, 1-1, Onaka-cho, Shuri, Naha, Okinawa 903-0823, Japan

表1 沖縄県立博物館収蔵の前近代の地図一覧

台帳番号	受入年月日	受理次第	名称	数量	作者	製作年代	法量	備考
No.1	(昭和31) 1956.10.20	寄贈	(琉球国) 琉球三省并三十六島之圖	1	仙壹林子平図		縦54.1cm×横72.6cm	折りたたまれていた。「金澤文庫」印あり。
No.2	(昭和42) 1967.11.28	寄贈	琉球図全図	1			縦55.1cm×横74.6cm	折りたたまれていた。「阿波岐尊法所蔵」の印あり。
No.3	(昭和51) 1976.5.10	寄贈	三国通覧図説・琉球国	1			縦51.2cm×横71.3cm	折りたたまれていた。
No.4	(昭和53) 1978.3.20	収集	琉球三省並三十六嶋	1	仙壹林子平図		縦49.6cm×横71.5cm	折りたたまれていた。
No.5	(昭和53) 1978.3.20	収集	朝鮮琉球全図	1			縦32.5cm×横20.4cm (たたんだ状態), 縦239.1cm×横32.4cm (広げた状態)	折りたたまれていた。
No.6	(昭和53) 1978.3.20	購入	朝鮮琉球全図 (A-6)	1			縦33.1cm×横20.6cm (たたんだ状態), 縦33.2cm×横228.5cm (広げた状態)	折りたたまれていた。
No.7	(昭和40) 1965.7.13	寄贈	琉球明細総図	1			縦53.3cm×横177.2cm	折りたたまれた状態から、現在は軸装されている。「陸軍文庫」の印あり。
No.8	(昭和53) 1978.7.29	購入	琉球地図	1	熊本伊右衛門入道 円齊 (書写)	元禄9年(1696年)	縦175.8cm×横87.8cm	「琉球国図」と呼ばれる。収蔵時の折りたたまれた状態から、現在は軸装されている。「太宰府神社文庫」「太宰府文庫」「天満宮」などの印あり。
No.9	—	—	琉球国全図	1			縦26.6cm×横32.3cm	額装。裏面に「MADE IN KOREA」と記されたシールが貼り付けられている。また、メモのような英文もあり。
No.10	(平成14) 2002.7.1	移管	国絵図伊平屋嶋図	1		18世紀後半以降		修理済。付、トレース図。
No.11	(平成15) 2003.9.11	寄贈	「琉球国惣絵図」	6		18世紀後半以降	縦35cm×横68cm(国頭間切), 縦35cm×横49cm(国頭間切以外)	修理済。
No.12	(昭和53) 1978.3.31	購入	18世紀中国・日本地図	1	サムエル・ダン		縦33.0cm×横46.5cm	額装。
No.13	(昭和53) 1978.3.31	購入	18世紀中国・日本地図	1			縦50.0cm×横71.0cm	額装。
No.14	(昭和55) 1980.9.22	寄贈	17世紀の東南アジア地図	1			縦42.5cm×横58.0cm	額装。

※鳥瞰図や書籍に所収された地図は含めていない。 ※2次資料であるコピーも含めていない。

No.8の「琉球地図」は、通常「琉球国図」と呼ばれている地図である。地図には、1696（元禄9）年、福岡藩士の竹森道悦（松寿庵）によって太宰府天満宮に奉納されたことが記されている。九州南部からトカラ列島や奄美諸島・沖縄諸島までが描かれ、それぞれの島を結んでいる朱線は航路を示すといわれる。15世紀ごろの情報を載せた地図を模写したと考えられているため、そのころの琉球内の情報や琉球周辺海域における交流のあり方を知る資料である。特記事項として、『海東諸国紀』所収の「琉球国之図」よりも詳細な情報が記されていることが挙げられる（深瀬・渡辺 [2004]、上里・深瀬・渡辺 [2005]）。沖縄県立博物館への収蔵は20年ほど前になっているが、近年、その史料価値や歴史的意義が多角的に検討されている地図である（深瀬・渡辺 [2004]、上里・深瀬・渡辺 [2005]、安里 [2004a]、安里 [2004b]、佐伯 [2006] 等）。また、登録された資料ではないが、No.9「琉球国全図」という資料もあった。額装になっており、裏面には「MADE IN KOREA」や古美術店と思われる名前の記されたシールが貼られていることから、韓国で入手された地図と推定される。同じく裏面に英文も記されていたが、部分的にしか判読できなかった。ただ、おおよそ「朝鮮の古い本から取られた地図」ということは分かった。おそらく、何かの書籍から一部分取り出され、額装された地図と考えられる。また、地図の描かれ方や記載された文字情報がNo.8「琉球地図（琉球国図）」の一部と似ていたが、同様な地図があるかどうか、またどの書籍に所収された地図なのか、今後詳細な確認調査をする必要がある。

No.10とNo.11は、「琉球国惣絵図」（間切集成図）と総称されている地図である。これらは、琉球王国時代、首里王府機関にあった評定所の文書に出てくる「惣絵図」という行政用語になって命名されている（豊見山 [2001]）。当時の行政単位であった間切ごとに色分けされ、間切内の村（今の字に相当）や番所、道筋や河川などの絵や位置も示された詳細な地図である。これらのうち、No.10の伊平屋間切の伊平屋島を描いた地図は文化課旧所蔵であった。琉球政府文化財保護委員会のおきに入手されたようだが、詳細な経緯は不明である。ただ、裏面に「From Syuri Castle」と記されていたことから、首里城周

辺で収集されたものと推定されている。No.11の6枚は、NPO法人の琉米歴史研究会（理事長 喜舎場静夫氏）の尽力によって、2001年4月、アメリカから返還された地図である。No.11の絵図で描かれた間切は、①国頭間切、②北谷間切・越來間切、③中城間切・宜野湾間切・浦添間切・西原間切、④首里・那覇・泊村・久米村・南風原間切・豊見城間切・真和志間切・小禄間切、⑤大里間切・佐敷間切・知念間切・玉城間切、⑥喜屋武間切・高嶺間切・真壁間切・兼城間切・東風平間切・摩文仁間切・具志頭間切である。No.10とNo.11を合わせて7枚になるが、琉球王国内のその他の間切を記した地図も含めると、全部で25枚存在したのではないかと考えられている（金城 [2001]）。製作年代は、絵図の内容から18世紀後半（1781～1798年）の間と推定されている（金城 [2001]）が、金城氏も述べているとおり、惣絵図（間切集成図）に記された内容を詳細に検討することによって、製作年代も明らかになると考えられる。これからの課題の一つである。絵図製作の基礎資料については、首里王府独自で実施された「乾隆御支配」（乾隆検地のこと、1737～50年に実施）があげられている。この検地では、田畠や山などのが正確に測量され、多数の測量図や絵図類が作製されたので、その情報がこの絵図に反映されていると考えられている（豊見山 [2001]）。沖縄県立図書館に所蔵されている東恩納寛惇文庫の「薩摩藩調整図」（沖縄県教育委員会 [1994]）や尚財団蔵の「琉球国之図」（日本経済新聞 [2004]）との関連も考えられるので、詳細な検討が必要である。

No.12とNo.13は東アジア全体を描き、No.14は東アジアから東南アジアまでを描いた地図である。いずれも明確な製作年等は記されていないが、これまでに知られている様々なアジア図との比較検討をするなど、詳細な情報の確認は今後の課題である。

おわりに

沖縄県立博物館が所蔵する地図資料を概観してきた。近年の研究成果を若干紹介することができたが、個々の資料についての概観のみで、具体的なまとめ及び詳細な課題点を挙げることを本報告内ではできなかった。また、書籍に所収された地図や鳥瞰図等までは含めなかったため、もう一步進めた集成作業

も今後に残すこととなった。

地図だけではないが、資料にどのようなことが記されているのか、どのような情報を読み取ることができるのか、一つ一つの資料を細かく分析する作業は今後の課題としたい。

引用文献

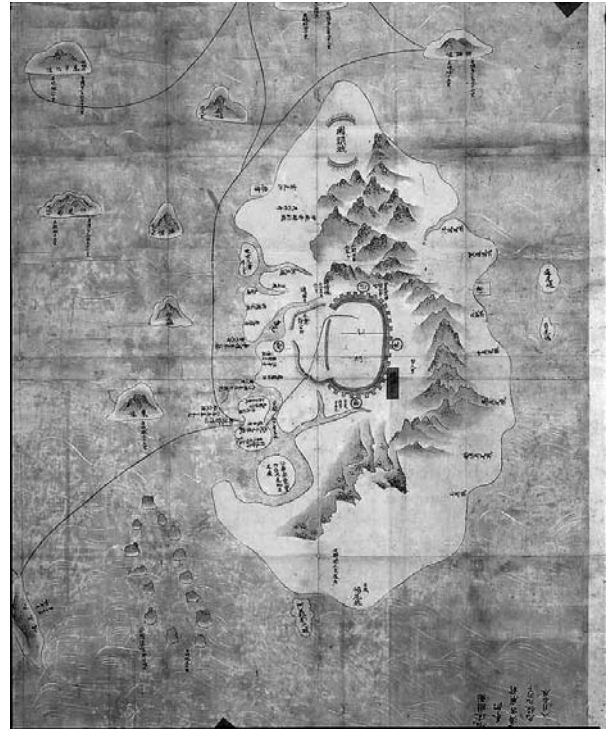
- 安里 進. 2004年a. 「太宰府神社旧蔵『琉球国図』にみる15世紀の琉球王国」浦添市立図書館『浦添市立図書館紀要』第15号
- 安里 進. 2004年b. 「最古の琉球地図（上）（中）（下）」モノと図像が語る琉球史『沖縄タイムス』
- 上里隆史・深瀬公一郎・渡辺美季. 2005年. 「沖縄県立博物館所蔵『琉球國圖』」日本古文書学会『古文書研究』第60号
- 沖縄県教育委員会. 1984年. 『沖縄県歴史の道調査報告書－真珠道・末吉宮参詣道－』
- 沖縄県教育委員会. 1994年. 『琉球国絵図史料 第三集－天保国絵図・首里古地図及び関連史料』
- 金城 善. 2001年. 「帰ってきた絵地図・情報を読み解く（中）」『沖縄タイムス』
- 佐伯弘次. 2006年. 「『海東諸国紀』の日本・琉球図と『琉球国図』」『九州史学』第144号
- 豊見山和行. 2001年. 「帰ってきた絵地図・情報を読み解く（上）」『沖縄タイムス』
- 深瀬公一郎・渡辺美季. 2004年. 「解題：沖縄県立博物館所蔵『琉球國圖』」『琉球と日本本土の遷移地域としてのトカラ列島の歴史的位置づけをめぐる総合研究』琉球大学法文学部（研究代表者 高良倉吉）
- 『日本経済新聞』. 2004年. 「琉球国之図」

参考文献

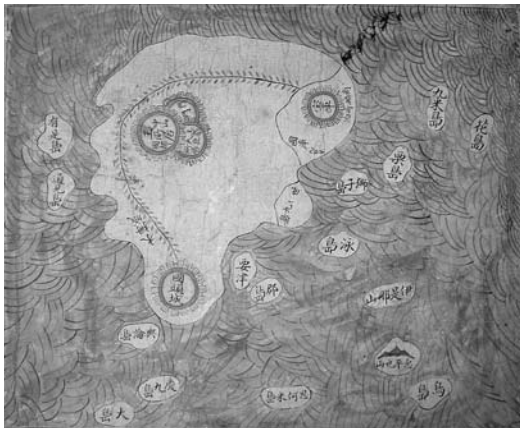
- 安里 進. 2001年. 「帰ってきた絵地図・情報を読み解く（下）」『沖縄タイムス』
- 安里 進. 2005年. 「今帰仁旧城図と琉球王国の測量技術」『沖縄の土木遺産』ボーダーインク
- 沖縄県教育委員会文化課琉球国絵図史料集編集委員会編. 1992年. 『琉球国絵図史料集 第一集－正保国絵図及び関連史料－』榕樹社
- 沖縄県教育委員会文化課琉球国絵図史料集編集委員会編. 1993年. 『琉球国絵図史料集 第二集－元禄国絵図及び関連史料－』榕樹社
- 沖縄県教育委員会. 2003年. 『沖縄県史ビジュアル版12 古地図にみる琉球』
- 岡山県立博物館. 1982年. 『特別展 古地図－地図が語る歴史と文化－』
- 九州国立博物館. 2006年. 『うるま ちゅら島 琉球展』
- 佐伯弘次. 2003年. 「室町後期の博多商人道安と東アジア」九州大学大学院人文科学研究院『史淵』第140集
- 佐伯弘次. 2004年. コラム「『海東諸国記』の地図と「琉球国図」」『東アジア海道 海商・港・沈没船』国立歴史民俗博物館
- 下山 進. 2003年. 「琉球國惣絵図（間切集成図）に使用された色材について」. 非破壊分析調査報告書 吉備国際大学
- 名古屋市立博物館. 1983年. 『特別展 日本の地図 古地図にみる文化史』
- 横浜市歴史博物館. 1997年. 『江戸時代の横浜の姿 絵図・地誌などにみる』
- 渡辺美季. 2006年. 「竹森道悦と地図奉納－『世界図』・『肥前長崎図』の紹介を中心に－」『九州史学』第146号



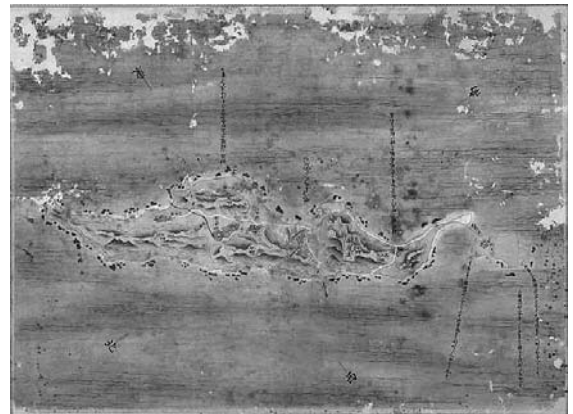
琉球地図（琉球国図）全体



琉球地図（琉球国図）沖縄島周辺部分拡大



琉球国地図



琉球国惣絵図（間切集成図）：伊平屋間切（伊平屋島）



琉球図惣絵図 (間切集成図) : 国頭間切



琉球図惣絵図 (間切集成図) : 北谷間切・越來間切



琉球図惣絵図 (間切集成図) : 首里・那覇・泊村・久米村・南風原間切・豊見城間切・真和志間切・小禄間切



琉球図惣絵図 (間切集成図) : 中城間切・宜野湾間切・浦添間切・西原間切



琉球図惣絵図 (間切集成図) : 大里間切・佐敷間切・知念間切・玉城間切



琉球図惣絵図 (間切集成図) : 喜屋武間切・高嶺間切・真壁間切・兼城間切・東風平間切・摩文仁間切・具志頭間切